みんなのページ

はじまった　みんなのページ　よろしくね。

今月号より、OPENしましたこのページ。とにかく楽しいページにしていきたいと思います。川柳・イラストなら特にテーマはありません。子どもからお年寄りまで、みなさんからの投稿をお待ちしています。

みなで5・7・5

・五月晴　菜の花迷路　車椅子　梅村金次郎さん（安曇川町藤江）
・栃餅（とちもち）が　好きなわたしは　山育ち　赤塚光恵さん（安曇川町下古賀）
・ばあちゃんが　杵（きね）もち爺が　手がえして　中野育子さん（朽木上野）

マキノ中学校PTA広報「鳰」
卒業川柳より　～今年の卒業生の作品です～

・卒業しても　毎日食べたい　学校給食　T・Oさん
・泣きながら　何度も吹いた　あのメロディー　C・Cさん
・休みの日　部活だらけで　死にかけた　Y・Aさん
・うとうとと　三年ねすごし　スリーピング　S・Hさん
・五・七・五で　おもい出すべて　語れない　T・Mさん

高島小学校　五月の俳句より

・はたけには　赤色見えた　いちごかな　N・Aさん（4年女子）
・れんげ草　みつをすおうと　苦戦して　Y・Kさん（6年女子）
・きょうもね　いつもとおなじ　あさごはん　N・Yくん（4年男子）
・子どもの日　もうおしまいだ　こいのぼり　C・Uさん（4年女子）
・かたつむり　あじさいのうえ　いいかもね　M・Nさん（4年女子）

KID'S NEWS

7月25日～30日　愛・地球博で　地雷をなくそう！　こどもキャンペーン2005を行います。

みなさんこんにちは。私たちは「地雷をなくそう！こども実行委員会」といいます。市内の小学校5年生～高校生のメンバーで「世界から地雷をなくすために、自分たちの出来ること」をやっていこうという集まりです。今回、私たちの取り組みを皆さんに紹介したいと思います。

旧新旭町では、町内にある企業で日本が保有していた地雷の廃棄処理が受け入れられたことをきっかけに、地雷廃絶活動への取り組みが始まり、地雷をなくそう！マラソンや全国こどもサミットといった取り組みが続けられてきました。

さらに昨年は、私たちを始めたくさんの小・中学生が集まり「地雷をなくそう！世界こどもサミット」が開催され、地雷被害者（サバイバー）や、いろんな国の人と交流を深め、地雷問題について考えました。また、地雷廃絶にむけた宣言文を世界に向けて発信し、こういった活動を「世界サミット」で留めず、募金活動や報告の場を持ち続けることを宣言しました。

今回、このような私たちの活動を知って、NGO（非政府組織）のJCBL（地雷廃絶日本キャンペーン）さんからお誘いをいただき、7月25日～30日に、愛・地球博の地球市民村パビリオンで地雷廃絶を訴える活動をさせてもらうことになりました。

愛・地球博、つまり万博は世界中の人が集まって注目される場なので、ぜひこの機会にたくさんの人々に地雷のことについて知ってもらいたいと思います。そのために、私たちは今、知らない人にもわかってもらえるように「朗読劇」の準備と練習しています。

（地雷をなくそう！こども実行委員会）

毎日募集中！

・**みんなで5・7・5「川柳」**
【テーマは特に設けません。ひとり一作品まで。自由に発想した作品をお待ちしています。】

・**集まれ！画伯「絵・イラスト」**
【子どもたちのかわいい作品大募集！対象者は0歳から15歳まで。】
※毎月10日メ切。（掲載希望作品が多かった場合またはメ切を過ぎた場合は、次月の広報に掲載）
※投稿方法　郵便またはE-mailにより、作品に名前、連絡先を必ず書き添えて市役所秘書広報課まで投稿してください。

〒520－1592　高島市新旭町北畑565番地
高島市役所秘書広報課秘書広報課
「みんなのページ」係まで☎（25）8130
E-mail　koho@city.takashima.shiga.jp

市長日記

様々な"みどり"の色や姿や組み合わせに感動するこの頃です。

近畿105市の仲間入りをしました。神戸で開催された市長会には、尼崎でのJR西日本、福知山線の脱線事故の関係市長も参加され、消防のレスキュー隊や医療関係者が日常から助け合う関係を結んでいたからこそ昼夜を分かたず機能的に対応ができたと報告されました。高島市でも防災力の向上を図るため6月1日から新しく総合防災課を設置します。

春のお祭りでは町衆の意気込みや市内それぞれの地域の歴史を肌で感じるとともに、なるほどという賢い仕組みに出会いました。今津の住吉神社のお祭りでは、子ども達の溢れる元気と「外孫も神輿を担ぎに帰ってきてるんや」と好々爺の笑顔が印象的でした。新旭の大田神社では、毎年の干支の年男が神輿のかつぎ役に出る仕組みがあります。今年も25歳から73歳をひとつに繋ぎました。ある時、ある人たちが織り込んだ知恵の仕組み。少子化や人手不足を嘆く姿と、懐かしい顔にも会え、地域まるごとが命のつながりを歓びあえる姿は機転一つなのかもしれません。

見事な袴姿や絣の着物。子ども達の法被姿も凛々しく残していきたい文化ですね。手間のかかることの豊かさを理解するには、そこで結ばれる信頼関係や受け継がれる智慧、結果的に安全な地域を作っていることも含め読み取る力が必要だと感じます。袴の前襞は仁義礼智信を表しているのだとか。礼服では伝えられない何かをどうしていくといいでしょうか。

入賞者とともに
300人以上が参加して開催されました。
「第10回びわ湖国際フルートコンクール」

合併記念式典に向けた「環の郷」フォーラムの打ち合わせで「高島の覚悟」という話になり「少なくとも東京の価値観と一線を画すこと」との表現がでてきました。利便性を追求してきた日本は、財政的にも環境的にもそして精神文化の面でも行き詰まってきている。高島にはそれを突き抜けていく本物の仕組みや景観が残されているのだと。

主に市内で撮影された「映像詩　里山Ⅱ　命めぐる水の流れ」が海外の複数の映像コンクールでグランプリに輝き、NHK始まって以来のことだとか。今なぜ「かばた」や「里山」なのかと問うと、キリスト教の自然観にはなかった、人も自然の一部であるという考え、そして映し出された"共存"の姿に世界が共感しているのだということでした。都市に憧れ、遅れている、何もないとマイナスイメージを積み重ねてきた時代がありました。まるでオセロの黒の支配から、角を取ったことでいっせいに白に裏返っていくような瞬間が訪れようとしています。

高島市 歴史散歩 No.6

鵜川四十八体仏

白鬚神社から国道161号を北上してすぐの山際に、旧西近江路とされる道があり、この道をあがった丘陵上には、花崗岩で造られた33体の石仏群があります。これらは鵜川四十八体仏と呼ばれ、長年の風化で表面の摩滅が進んではいますが、容貌や衣文の掘り出しの技法などから、室町時代後半ころに造られた阿弥陀如来坐像であると考えられています。この石仏は、観音寺城（安土町）の城主で、近江守護を務めた六角義賢が、天文22年（1553）に、亡き母の供養のために造立したものとされ、義賢は、観音寺城のある湖東から、この湖西の鵜川の地を阿弥陀如来の住む西方浄土に見立てたのではないかとも考えられています。

なお、48体のうち13体は大津市坂本に運ばれ、江戸時代以降の天台座主の墓や、徳川家康の供養塔などがあることで知られる慈眼堂の境内に、現在も安置されています。他の2体は、盗難にあい現在は行方不明です。

高島市内では、鵜川四十八体仏と同じ作風を示す大日如来像ほか4体の石仏が、安曇川町田中の玉泉寺に伝わっています。

（文化財課）

鵜川四十八体仏（県指定史跡）

玉泉寺石仏